

第七卷あらすじ

サムは、ゼムラの言う、血の中の汚れを取り去るために、『罪の癒やされる』と云う、その場所を目指して砂の荒野を歩き続けます。

砂漠の熱射に焼かれ、砂嵐に遭い、答えの見つからない問答を繰り返しながら歩いていると、ふと、自分が得た「命の宝物」とは、実は「マガラ」によって導かれていたのではないか？……と、思い至ります。

そしてサムは、ゼムラの復讐心の陰に隠した、マガラの力の源泉に結びつく、ゼムラの負った心の傷をそこに見出します。するとそのとき……、生涯誰にも話すまいと心に誓った、美しい女性の姿が重なり合います。

サムは、その二人の描き出す、人の世に隠された見えない力に思いを馳せながら、思いは……「生」の中心点へと、サムの思考を導きます。

こうして旅の目的は、罪滅ぼしのその先へと導かれて行きます……

しかし、その旅は、サムの犯した様々な罪を償いながら、やがてサムは、『罪の癒やされる』その場所に辿り着くこともできないままに老いさらばえ、そして生きるその意味すら見失ってしまったその時……旅の目的はその姿を現して行きます――